

■ 発行 / 神戸市灘区六甲台町1
りくそうかい
 神戸大学農学部内 六篠会
 (神戸大学農学部同窓会)
 ■ 連絡用 FAX : 078-881-2752
 ■ E-mail : ans-rikusou@edu.kobe-u.ac.jp

六篠会報



自然科学総合研究棟4号館



正門から見た自然科学総合研究棟4号館



2005年に撮影した温室です。
現在自然科学総合研究棟4号館が立っています



農学部正面アーケードです

● 六篠会長の挨拶 2	● 研究室紹介	(1) 植物遺伝資源開発学 16
● 学部長の挨拶 3		(1) 食料経済学 17
● 神戸大学理事・副学長 4		(2) 生物機能開発化学 18
● 学友会・KRC 5		(3) 細胞機能構造学 19
● 同窓生は今…		● 六篠賞 20
(1) 金枝 敏明 6	● 同窓会報告	(1) 庶務報告 22
(2) 姚 楠 7		(2) 慶弔関係 22
(3) 奥西 康二 8		(3) 退職および着任教員 22
● 六篠会代議員総会報告 9		(4) 六篠賞受賞者一覧・一般事業 23
● 第5回ホームカミングディの開催 10	● 21年度決算報告 24	
● 支部便り	● 22年度予算報告 24	
(1) KOBE 六篠会 11	● 同窓会事務局の案内 24	
(2) 県六篠会 12	● 編集後記 24	
(3) 関東支部 13		
(4) 東海・広島支部 14		
(5) 延喜会・KUCの活動 15		

会長挨拶

六篠会会長 北浦 義久 (兵A6回)



六篠会の皆さん、お元気でご活躍の事と、心からお慶び申し上げます。

昨年10月、神戸大学農学部創立60周年記念式典を盛大に開催してから、早1年経過しました。

この間、六篠会も農学部の発展を念じつつ、着実に事業を展開するとともに、会員の皆さん方との交流を深める努力を重ねてまいりました。

農学部も幾多の変遷を経て、充実発展し、今日に至っています。現在の農学部は、食料、環境、健康生命を担う食料環境システム学科、資源生命科学科、生命機能科学科、の3学科構成で、生産環境工学コース他、6コースを擁する学部へ発展し、全国的にも、その評価が高まっております。

最近、神戸大学を目指す学生が多くなり、成績も優秀な人材が集まっていると伺っております。又、卒業生の動向も大きく変わっているようです。学部卒業生の3分の2が大学院に進学し、更に研鑽を積まれた上、修士号或いは博士号をとられた後、就職されるケースが増えているようです。

こうして優秀な後輩の皆さんが、各界、各分野で活躍され、神戸大学の評価を高めてくれている事は、大変嬉しく、今後更なる発展に期待している所です。

同窓会活動と関連する大学の動きについて、若干触れておきたいと思えます。

先ず、神戸大学基金についてであります。一昨年来、募金について、会員の皆さんに呼びかけて来たところですが、多くの方々から拠出を頂き、かなりの額が集まったようです。

8月末現在、寄附金総額が21億5千5百万余、寄附件数が8千5百件余に達しているようです。内、農学部関係は、寄附金額838万円、寄附件数262件と伺っています。

この基金を活用した事業については、六甲台講堂の大々的な改修が進められ、ホームカミングデイの会場として、今年も活用されたところです。また、新しいコミュニケーション・ツールとしての「神戸大学とわたし」が創刊され、広く、活用されています。さらに今年度事業として、「指導プログラムの展開」や「神戸大学基金奨学金の創設」が予定されています。

さらに、将来構想として、第一キャンパスの人口芝生化も計画されています。これらを実現するためには、多額の基金を必要とします。このことをご理解頂き今後とも、神戸大学基金へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

次に、今年で第5回目を迎えた神戸大学ホームカミングデイについて触れておきたいと思えます。

10月30日(土)午前10時30分から、先にふれた六甲台講堂で記念式典が開催され、記念講演や神戸大学交響楽団による演奏のあと、アカデミア館で、ティパーティーが開かれ、参加者の交流の輪が広がりました。

午後からは、大学の先生、企業の第一線で活躍中のOB、現役の大学院生の3人による講演会を中心に、進められ、終了後、懇親会で交流をさらに深めました。

参加者は昨年の60周年記念に比べてかなり少なく、60名余りでしたが、有意義な一日となりました。来年はさらに、多くの会員の皆さんに出席いただき、盛り上げたいものと念じております。

続いて、六篠会の活動について報告させていただきます。

1、六篠賞の定着について

昨年の創立60周年を記念して、制定した六篠賞について、昨年の実績を踏まえ、さらに、制度の定着化をめざして取り組みます。

2、支部活動への支援について

関東支部、東海支部、広島支部、並びに、兵庫県六篠会、KOBE六篠会、に対し、活動費の支援を行うとともに、総会に会長が出席し激励しました。

3、他学部同窓会との交流について

全学的な組織である、学友会や神戸大学クラブ(KUC)の活動に積極的に参加し、他学部同窓会会員との交流を深めるよう努めます。

以上、大学の現況や六篠会の活動について報告させていただきましたが、同窓会を活性化し、発展させるためには、会員の皆さんのご理解とご支援、ご協力がなければ、達成出来ません。皆さんの温かいご支援を心からお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

ご自愛のうえ、一層のご活躍をされますよう祈念して止みません。

大学院農学研究科長・農学部長 内田 一徳



夏の酷暑がうそのように過ぎやすく、食べ物も美味しい良い季節を迎えました。六篠会会員の皆様には益々ご清祥にご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年は農学部創立60周年記念式典・祝賀会に、多数の方々にご参加くださいまして、誠にありがとうございました。大変楽しく、皆様の心に残る素晴らしい会だったと思います。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。

今年も、会員の皆様に、農学部の明るい元気なニュースをお届けしたいと思います。

まず、学舎新築・改修関連ニュースです。平成22年3月に自然科学総合研究棟4号館（新築8階建）が完成し、農学研究科から3重点研究チームが入居しました。また、農学研究科で唯一未改修でしたF棟の改修が9月より開始され、3月には完成する予定です。農学研究科にお立ち寄りの際には、自然科学総合研究棟4号館とF棟を是非ご訪問いただければ幸いです。

次に、うれしい受賞のニュースです。昨年10月に、前藤薫先生らが「2009年度日本昆虫学会賞論文賞」、本年3月に万年英之先生が「日本畜産学会賞」、本多健先生が「日本畜産学会賞奨励賞」5月に池田健一先生が「医学生物学電子顕微鏡技術学会功績賞」、7月に鈴木康生先生が「日本食品保蔵科学会奨励賞」、鈴木康生先生・寺井弘文先生らが「日本食品保蔵科学会論文賞」を、それぞれ受賞されました。誠にめでとございました。益々のご精進とさらなるご発展をお祈りします。

次は、教員の移動についてです。本年3月末日をもって、加古敏之先生（食料環境経済学講座）、佐々木満先生（応用生命化学講座）、阿江教治先生（農環境生物学講座）が定年退職になりました。また、食資源教育研究センターの教授でした保坂和良先生には、北海道十勝の農研機構でのバレイショ先端遺伝研究を強く希望されてご退職になりました。先生方の長年にわたる教育研究へのご貢献に対しまして心よりお礼申し上げますとともに、今後ますますのご健勝・ご活躍を心より祈念いたします。なお、本年より定年延長が認められ、2年間は定年が64歳、以降は65歳となります。また、定年退職されました3先生の後任には、各研究室の准教授であった草苺仁・滝川浩郷・藤嶽暢英先生が10月1日付けで教授に昇任されました。さらなる研究室の隆盛を期待しております。一方、神戸大学全体で文部科学省科学技術振興調整費JST『女性研究者養成システム改革加速』プログラムに採択され、女性教員の割合が相当少ない自然科学系部局で今後5年間に女性に限定した公募を行うことになっています。農学研究科でも今後5年間に5名の女性教員を採用する予定になっています。

続いて教育関係のニュースです。農学部では、これまでも積極的に国際連携教育を推進してきました。現在実施中の「食料危機に備え資源保全をEUに学びアジアに活かす国際農業戦略の実践的トレーニング」であるITP(International Training Program)事業(H19-24)では、中間評価年を迎え、9月27日に国際シンポジウムを、9月28日には外部評価委員会(委員長:ソウル大学Yong-Hwan Lee教授)を開催しました。昨年度は3名、今年度は4名の若手研究者をEUおよびアジアに派遣しました。このITP答礼事業として、日本学術振興会「東アジア若手研究者交流支援事業」により、7月18日より1ヶ月間、55名の応募者から厳選した13名の若手研究者をフィリピン・タイ・ベトナムから招聘しました。さらに、九州大学が中心となって、本学や東京農工大学、ドイツのホーヘンハイム大学、タイのカセサート大学・チェンマイ大学とともに実施中の国際化加速プログラム「国際農業教育共同プラットフォームの構築(平成20-22年)」もいよいよ最終年度になり、12月にリレー講義と締めくくり会議を開催する予定です。また、食料環境システム学科生産環境工学コース地域環境工学プログラムでは、日本技術者教育認定機構JABEEの継続審査を11月に受け、みごと農業工学関連分野では初めて6年の認定を受けました。

続いて研究関連ニュースです。文科省振興調整費JST「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」プロジェクトには、農学研究科からは4グループ12名の教員が参加していますが、順調に研究が進行しています。今年は中間評価の3年目を迎えますが、無事に継続が認められ、10年間で総事業資金として150億円以上を獲得できますことを強く祈念しています。さらに、同じくJST地球規模課題対応国際科学技術協力事業として、杉本幸裕先生が中心となって実施しております「根寄生雑草克服によるスーダン乾燥地農業開発」プロジェクト(総額約5.3億円)では、今年9月に淡路夢舞台で盛大に国際シンポジウムを開催しました。若手中堅研究者の「インターゲノミクス」研究会も、順調に研究を継続しています。

さて、昨年10月4日の朝日新聞全国紙朝刊の中央見開き2頁に全国農学系学部長会議71メンバーが参加した朝日新聞社地球環境フォーラム協賛広告と「『小さな地球』無限の可能性」座談会記事が掲載されましたが、今年も朝日新聞社と協賛して、11月21日(日)に大阪梅田クリスタルホールにて、「食シンポ(仮称)」と題したシンポジウムを開催する予定です。本学から、万年英之先生が基調講演をされますので、ふるってご参加くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、六篠会のますますのご発展と、六篠会会員の皆様のご健勝とご発展を心から祈念いたします。

神戸大学の近況報告 10

理事・副学長 中村 千春



今年の夏は記録破りの猛暑でしたが、秋が深まり急に寒くなりました。日本アルプスの峰々は白雪をまとったようです。六篠会員の皆様にはお変わりなくご清祥のことと存じます。

今年も昨年と同様、神戸大学の近況をお知らせします。まずは国際関係で、ブリュッセルオフィスの開設についてです。

神戸大学は、9月1日、北京中国事務所に次ぐ2番目の海外事務所として、ベルギーの首都ブリュッセルに神戸大学ブリュッセルオフィスを開設しました。ブリュッセルはEUの首都として、ヴァン・ロンブイ氏（EU大統領、本年4月に来学、記念講演）を議長とする欧州理事会やパローズ氏（2006年4月に来学、記念講演）を委員長とする欧州委員会などのEU諸機関が集中している他、EU各国の研究機関が事務所を構えており、最新情報の交換や合意形成が行われる場です。9月3日には、福田学長出席のもと、オープニングセレモニーが開催されました。セレモニーにはベルギー主要6大学の学長、副学長、在ベルギー日本国特命全権大使、日本企業関係者等の来賓が参加しました。来年3月には、ロンブイ大統領の特別講演（予定）を含む、「日EU学術連携の新時代」と題した記念シンポジウムを開催します。神戸大学は2005年4月以来、EUインスティテュート関西（EUIJ関西）の幹事校としてEUに関する社会科学を中心とした研究を展開してきましたが、今後は、オフィスを活用してEU各国と人文科学、自然科学、医学を含めた総合的な教育・研究連携を推進して参ります。

海外同窓会の設立について

9月25日に、マレーシアのクアラルンプールで、韓国、台湾、中国、ベトナム、インドネシア、タイに次ぐ7番目の海外同窓会として「マレーシア神戸大学同窓会」が発足しました。クアラルンプールは、シンガポールやバンコクとも人的交流が多く、各同窓会をつなぐ役割を果たして頂きたいと思っています。来年1月にはバンコクで、学長出席の下に、「神戸大学フォーラムinバンコク」を開催する予定です。

神戸大学統合研究拠点の設置について

神戸大学統合研究拠点の設置目的は、バイオメディカル関連研究機関や企業が集積するポートアイランド地区で、産学官連携による異分野融合型の研究を推進することです。統合研究拠点では、バイオリファイナリー（農工連携）を含む神戸大学の5つの「フラグシップ・プロジェクト」に加えて、科学技術振興機構（JST）の資金による研究設備を活用した共同研究プロジェクトが計画されています。統合研究拠点の設置場所は、昨年の「事業仕分け」で物議をかもした次世代スーパーコンピューターの東側、「京コンピューター前駅」のすぐ南側です。来年6月には、開設の記念シンポジウムとサテライトシンポジウム（日中豪3局連携による健康科学）が企画されています。

産学官連携事業について

神戸大学は、8月2日、兵庫県との包括連携協定を締結しました。協定締結により、神戸大学と兵庫県が有する人的・物的資源を相互に有効活用しながら連携・協力を深め、地域への一

層の貢献が期待できます。都道府県を対象とする包括連携協定は、神戸大学にとって初めてであり、兵庫県との相互の包括的かつ持続的な連携・協力関係の構築と発展を目指します。協定締結にあわせて記念講演会が兵庫県公館で開催されました。記念講演会では、科学技術・産業振興分野で連携して取り組みが予定されている既述の統合研究拠点プロジェクトやJSTの資金による研究設備を活用した産学官連携プロジェクト等について紹介がありました。

産学連携でもうひとつのニュースです。神戸大学連携創造本部は、9月29日に、香港科技大学（アジア大学ランキング2位）技術移転センターおよび香港中文大学（同4位）テクノロジーライセンスオフィスと国際的産学連携活動を目的とした連携協定を結びました。産学連携を目的とした海外大学との連携協定は神戸大学にとって初めてであり、連携創造本部は本協定に基づき相互の持続的な連携・協力関係の構築、発展を目指して参ります。

続いて農学研究科関連のニュースです。8月19日、農学研究科が「JAグループ兵庫」と連携協定を締結しました。三宮の全農兵庫直営レストラン「神戸プレジール」での調印式で、石田JAグループ兵庫会長と固い握手を交わした内田農学研究科長は、「研究でも教育でも兵庫の農業に協力していきたい」と抱負を語りました。なお、10月下旬の1週間、「神戸プレジール」では「神戸大学フェア」が開催され、加西の食資源教育研究センターで生産された神戸大学ビーフ、米、たまねぎ、馬鈴薯を使用した料理が提供されました。8月30日には、篠山市との「連携協力に関する協定」締結もありました。農学研究科と篠山市とは2006年に地域連携協定を締結し、「篠山フィールドステーション」を拠点として「食農コープ教育」など様々な活動を展開してきましたが、この基盤の上に締結された連携協力協定には保健学研究科が加わり、中山間地域における発達障害児の早期発見・支援プログラムに取り組むことになります。

あと1つ。11月5日に沢の鶴、農学研究科、神戸市灘区との産学官連携による神戸大学の日本酒第2弾「茜彩（あかねいろ）」の発売記者発表があります。灘区の産業振興を目的とした連携の一環として、眞山先生（元農学研究科長、前理事・副学長）が進めてこられた沢の鶴との共同型協力研究の成果です。土佐先生（植物病理学研究室）の指導のもと、ベトナム人留学生Hauさんが1,200株を越える酵母菌を灘区の様々な植物の花から採取し、このうち神戸市の木である「さざんか」の花から分離した菌が見事に美味しい日本酒を醸しました。「茜彩」は紫黒米を用いた生もと造りのピンク色で、ほの甘い女性向きのお酒です。皆様も、「神戸の香」とあわせて是非とも購入し、味わってください。冬季限定販売です。

報告は以上です。最後になりましたが、六篠会のますますの発展と六篠会会員の皆様のご健勝とご安寧を心より祈り申し上げ、加えて神戸大学と農学部・農学研究科への変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

学友会だより

事務局

◎平成22年度 第1回学友会幹事会を開催しました。

平成22年5月25日(火)午後5時30分から、事務局6階の大会議室において開催されました。

当日の協議題のうち、

- ①平成21年度事業報告
- ②平成21年度収支決算報告及び
- ③学友会支部登録申請については、原案どおり承認されました。

更に

- ④入学手続き時の同窓会への勧誘については、今年度初めて大学側の支援による入学手続き会場における誘導等が行われ、その結果に基づく報告が、参加された同窓会からあり、今後に向けて更なる改善策を検討していくことで了承されました。

また、大学側からは、

- ①第5回ホームカミングデイへの協力要請
- ②大学の新執行部体制と予算の概要
- ③ブリュッセル神戸大学事務所の設置とEU大統領の来学
- ④平成21年度学位記授与状況と平成22年度入学試験状況

並びに

- ⑤神戸大学基金の現状とお願いなどについての報告がありました。

◎平成22年度 第1回学友会常任幹事会を開催しました。

平成22年8月30日(月)午後4時から、経済学研究科中会議室において開催されました。まず、今年度末で任期満了になります本会の幹事の選考手続について協議を行いました。次に、新たな支部登録申請が3支部からあり、協議の結果、登録が承認されました。更に、新入生の同窓会への加入状況並びに勧誘方法などについても協議を行いました。これらの事案については、11月中旬開催予定の第2回幹事会において協議を行い、学友会としての方針を決定することで了承されました。

◎学友会支部登録が増加しています。

平成22年9月現在の学友会支部は、国内9カ所(東京、大阪、神戸、北海道、福井、岡山、鳥取、島根、愛媛)、国外2カ所(デトロイト、マニラ)の11カ所が組織され、活発に活動されています。詳しくは、学友会のホームページをご覧ください。また、支部登録についてお考えの場合は、学友会事務局までお問い合わせください。

学友会事務局 TEL078-803-5042

E-Mail:plan-gakuyukai@office.kobe-u.ac.jp

学友会のHP

<http://www.kobe-u.com/alumni/index.html>

六篠会の皆様へ

KUC運営委員長 伊藤 宏 (C33回、修士31回)

平素は北浦会長をはじめ能宗、中村、石賀の三氏には当会の運営委員としてKUCの活動に多大なご協力を頂きここに改めて深謝申し上げます。

KUCは学友会の下部組織として神戸地区での全学同窓会員の交流をはかるべく、講演会、見学会、ゴルフコンペ、囲碁会、旅行、英雄を語る会などを開催致しておりますのはご承知頂いていることと存じます。

直近では八月に神戸市立博物館で開催されましたボストン美術館所蔵の浮世絵展を学術委員の解説付きでの見学会を行い、50余名の参加を頂き非常に好評でした。

また10月にはわが同窓であります神戸新聞の高志 薫社長の講演と懇親会を開催いたしました。

現在、六篠会員の方のKUC会員は約30名と少々寂しい状況で御座います。今後、OBの学部を超えた交流が盛んとなるのが何らかの母校への貢献に繋がってゆくのではと思っております。

まずは、地元神戸地区での全学のOBの交流が盛んになるように努力するのがKUCの役割と考えております。

この趣旨にご賛同頂き、これを機に一人でも多くの方がご入会いただければ誠に幸いに存じます。

貴重な紙面をお借りしてKUCの勧誘になってしまいましたことをお許し下さい。

末尾乍ら六篠会の今後の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

岡山理科大学
副学長 **金枝 敏明**
(神T1回)



昭和45年卒業で、神大農学部1期生の金枝敏明です。現在、岡山理科大学で副学長(管理・運営担当)をしております。私は多くの卒業生とは少し異なる経験をし、また経歴を持っておりますので、ここに記したいと思います。先ず卒業は、4月30日です。私が3年生のときに、国内のみならず欧米でも学生紛争が頻発しました。ちなみにその年、東大では全共闘による安田講堂占拠があり、入試は実施できませんでした。同様に、神大農学部でも私の3年生の2月から4年生の11月まで長期のストライキが発生しました。スト終了時の4年生の11月から卒業する4月末までの短期間に、1年間分の講義を実施することになりました。神大の多くの学部で4月卒業になったと記憶しております。

当時、私たち1期生より上級生は兵庫農科大学学生であり、先輩達は1期生が専門課程に上がる2年生の秋に、篠山から神戸に引っ越ししてきました。同時に現在の農学部の建物が完成しました。我々学生には、二つの大学が存在するという形態が不利に働く影響はなかったように思います。同級生が始めた農学部のラグビー部(私も部員)も農大のラグビー部と一緒に汗を流しました。しかし、実態は農大のままで、牧歌的で、教官と学生の間には距離はなく、すべてが家族的な雰囲気でした。これには、当然良い面と改善すべき点も見受けられましたが、私はその良き面を徹底的に有効に生かさせて頂きました。

前述のスト中、自分自身を見つめる時間的な余裕は十二分にあり、紛争終了後、内定していた巨大企業の就職を取り消し、大学院に進学する決心をしました。しかし、当時の農学部には大学院はなく、尊敬していた小泉武紀先生(故人)に相談すると神大工学部もしくは京大農学部のどちらかを選択することになり、また上山泰先生(故人)の同窓生が工学部機械工学科の教授をしておられるということもあり、神大工学部の大学院を希望するようになりました。当時私のような考え方をした後輩も少々居り、機械や土木の大学院に進学しました。さて、農学部卒業後は研究生となり、失敗が許されない状況での入試勉強は大変でした。何とか過去問を一部入手しましたが、基本的には独学で、科目によっては工学部の授業を担当教員にお願いして受講しました。現在の大学の制度では、他学部履修は

ルール化され、簡単にできるものなのですが。

幸いにも第2志望の研究室で合格が認められ、生涯の研究テーマとなる加工学(要するにモノづくりを取扱う)の研究を始めました。その後、修士課程修了後も博士課程(当時の神大にはない)を目指し、今度は阪大工学部精密工学科の博士課程に進学しました。

分野が変わることは、私のように能力がない者には大変で、工学部での勉強では砂をかむ思いを何度となく致しました。ゆったりとした雰囲気での自分のやりたいことが出来た農学部(ただし、当時の話)とは異なり、研究業績が求められる工学部の大学院では、教官からも厳しい指示(指導ではありません)や叱咤も多いものでした。

博士課程を中退し、岡山理科大学に就職しました。ここでは、研究が自由に実施できる環境があり、教育面での仕事も私立大学にしては緩いものでした。したがって、阪大の教授に指導を仰いで存分に研究が出来ました。その上研究予算が潤沢にあり、大型の分析機器等も申請で購入できました。それらを基に博士の学位を得、1年の海外研修も出来ました。

現在、私は副学長をしておりますが、研究や講義を通常の教員と同様に担当しております。隔年9月には、神大農学部で集中講義を実施しております。母校で自分の専門を後輩に教えるのは、自分の原点に戻った感があり、また農学部時代の牧歌的な雰囲気の良い時代(現状は違います、念のため)を思い出させてくれ、ノスタルジーに浸ることが出来ます。しかし振り返れば、当時の教官の方達には寛容な方が多く、自分たちが甘えていたことは、肝に銘ずべきことでしょう。

現在の専門は、超精密加工(切削)と人工関節であり、後者は産学連携の良い見本としてマスコミやテレビ(ただし、ローカル版)が時々取り上げてくれます。もしこのような分野で皆様のお役にたてるようであれば、連絡してください。私の大学のホームページのアドレスは、
<http://www.ous.ac.jp/MECH/kaneda/kaneda.htm>
です。

最後に、今日私があるのも農学部の恩師のお陰とっております。ここに深く感謝する次第であります。

中国広州中山大学生命科学学院
教授 姚 楠
(博士前24回、博士後H14回)



相野先生から神戸大学植物病理学研究室卒業生の現在の仕事などの話を英語で書いてと依頼されました。とても嬉しく思いました。しかし、考えたら約十年間日本に滞在したので、やはり日本語で書かないといけなと思いました。私は平成4年11月に自費で日本へ留学に行きました。日本語学校、神戸大学研究生および修士、東京のある企業に就職、そして再び神戸大学に戻って、平成14年3月に農学博士号を取得しました。その後神戸を離れ、アメリカのシカゴにあるシカゴ大学で3年半ポスドクとして留学し、2005年9月に中国へ戻り、中国広州にある中山大学(Zhongshan University)に就職しました(中山大学は孫文が創立した歴史のある中国の重点大学である)。現在、中山大学生命科学学院教授として研究生活を続けている。すでに日本を離れて八年になったが、やはり神戸、そして関西、私にとって、第二の故郷でした。あまりにも多くの思い出があるのですが、やはり前向きに現在の仕事などを皆様へ報告したいと思います。

振り返れば、あっという間に時間が去ったと感じる。現在教師として、考えれば学生時代学んだ知識だけでなく、人生経験や、国際人としての考え方や視野などが私にとっての一生の財産となった。平成6年植物病理学研究室に入った当時、ブラジルや、ブルガリアや、インドネシアや、そしてその後ベトナムから来た留学生などで国際的な研究室の雰囲気が至極印象的でした。その後アメリカでもっと広い範囲からの外国の方との共同研究する上で大変役立ったと思います。そして現在の私の研究室にもベトナムから来た留学生をリクルートしており、異なる文化で育った人たちとお互いに理解して付き合い大きなビジョンで世界を見るという教育理念は、私の今の研究室にも引き継がれています。

時々、学生時代に眞山先生が書かれた大きな「道」を思い出し、困難があっても楽観的に前向きに進むと自分を励ましている。現在私の研究室には13名の学生がいます。学生

にはそれぞれのドリームがあります。私はよく学生に「運命は自分の手の中にある」と言う。私にとって、学生さんに各々の夢を実現させるために心から知識まで必要なサポートをできるだけ提供する。これはやはり眞山先生から継承したものである。実際、私は授業中或いは研究室ゼミの時日本で勉強した知識や、感想などをよく学生に話します。やはり良いものを吸収して学んで、お互いに協力する、そしてユニークな研究手法、暖かい研究室文化を創りたいと考えています。

昨年岡山県農林水産総合センター生物科学研究所の鳴坂先生(元神大農朴研究室教員)と一緒に申請した産業技術研究助成事業の国際分野での科研が採択を受けました。現在私たちは立てた目標を達成するために努力し続けています。この共同研究を通して、各々の研究の強みを発揮することはこれからの研究の方向であると思います。また、非常に嬉しいのは、私の修士時代の同期、博士時代の先輩である多田さんがアメリカから戻って香川大学で研究を続けることになったことです。この前、神戸で国際シンポジウムに参加した時、多田さんと会って、将来お互いに協力研究することを話しました。それと同じく神戸大病理の卒業生であるベトナムのノンラム大学のLe Dinh Don博士及びベトナム農林水産省植物保護研究所のTrinh Xuan Hoat博士からも連絡がありました。これからは、やはり神大農病理のルートから、枝繁葉茂の豊かな樹になることを信じています。

最後に、これまで長きに渡り様々な事をご教授頂きました恩師の皆様には一度中山大学を訪問していただくことを希望します。そして私の先輩や後輩たちと何か機会を作って、中国そして広州に遊びに来てください。現在の広州はアジアゲームもあって、きれいになっています。また、いつか神大のOB会にもう一度参加したいです。同窓会のますますの発展を期待します。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(株)ニッソーグリーン
奥西 康二
(神P9回、修7回)



「卒業後30年が経過しました」

六篠会の皆様、ご無沙汰しております。先日、仕事の関係で兵庫県農業技術センターに十数年ぶりにお邪魔致しました。その際、大学時代の病理学研究室で共に過ごした相野氏に会って行こうとしましたが、生憎不在でした。事務所の方に名刺を託しましたところ、後日相野氏から連絡を頂き、懐かしく現況や共通の知人のことなどについて会話を致しました。日を改め、相野氏が本会会誌の編集委員をしているとの事で六篠会の原稿依頼を受けました。多くの立派な業績を残されている方々を差し置いて、私などが執筆するなどおこがましいと辞退を申し上げましたが、強く薦められた事から、恥ずかしながら筆を執る事に致しました。

私、昭和55年修士過程を卒業しました。姓を八倉と申しました。大学を卒業、就職、結婚、子供が出来た後に、伯母の嫁ぎ先に家族ともども養子縁組した事から姓が変わっております。当時の知人には未だ旧姓で呼ばれる事が有りますが、私としては奥西姓にすっかり慣れてしまいました。

大学を卒業し、大日本インキ化学工業(株)(現DIC(株))に就職、24年間に在籍致しました。その内、研究所に約10年間、農業用殺菌剤の開発に従事し、ペフラン、バルコートと言う2剤の開発に携わることが出来ました。その後、これらの販売普及のために本社、大阪支店、再度本社に勤務した後、研究所に再配属となって2年後のことでした。大日本インキが農業事業から撤退することを決定しました。事業の売却先は、農業の事業に関して国内有数の会社である日本曹達(株)でした。突然の事業売却話となり、自身を含めた従業員においては日本曹達に転籍するか大日本インキに残って他事業を職とするかの選択を余儀なくされました。当時、国内の数社の農業メーカーでは事業撤退・売却があった時期でしたが、十分に利益を生み出していただけにまさか自分に起こるとは思っておらず、ある意味驚きましたが、醒めて眺める自分も一方に存在しました。結果、自身が開発、そして販売してきた製品と共に日本曹達に転籍することを躊躇なく決め、数十人の仲間と共に日本曹達のお世話になることになりました。日本曹達(株)は東証一部上場の総合化学会社で農業事業においては国内有数の開発・販売力を持つ会社です。転籍の話があった時、娘が大学受験の年に当たり、歴史の勉強を行っている際に教科書に、日本曹達の創業者の名前と新興財閥として日曹コンツェルンという名を見つけ、歴史に名を残す会社である事を知りました。日本曹達での6年間の内、最初の2年間は小田原研究所で研究管理に配属となり、DICからの事業移管がスムーズに運ぶ様に調整する事と、新規農業用薬剤を創生する研究員の側面支援をする立場での仕事に従

事しました。次の3年間は静岡県牧之原市にある研究圃場で芝用薬剤の研究要員として過ごし、新規芝用除草剤の開発に立ち会う事ができました。残りの1年間は同研究圃場での研究支援業務を行ってきました。日本曹達での6年間を経て、本年4月より、日本曹達の100%子会社である(株)ニッソーグリーンに出向となり、お世話になっています。同社はゴルフ場農薬・資材、家庭園芸用薬剤・資材、葉面散布肥料、森林薬剤、農業資材等の販売会社であり、この中のゴルフ場農薬・資材以外の商材の営業を担当することとなりました。それぞれの商品群にはそれぞれの特徴とそれぞれ特有の商流があり、この年齢になっても多くを学ぶ日々を送っています。暫く遠のいていた営業の仕事の再開で、以前に関係のあった人とも再会する事も出てきました。残された会社人生を眺めてみて、一人で仕事をする事は不可能であり、各担当者と協調し、また、色々な方の協力を仰ぎながら、仕事がスムーズに運ぶ様な環境作りをしてゆく事が自分の任務と思っています。今までの会社人生を振り返り、周囲の人々に恵まれてきた事に、また、一貫して農業と関わってこれた事に感謝しています。

さて私生活において、子供の頃に何度か父親に連れられて故郷の山に登った事を思い出します。大学時代には同好会でより高い山に行く様になりました。この体験が有って、次第に山に魅せられ、現在も年に何度か山に登ったり、山の見える場所を訪れたり、家内と一緒に自然により癒される余暇を過ごしています。本年4月から、成田に程近い自宅から都内に通勤する様になりましたが、京成電車の車窓から眺める印旛沼へと至る田園風景を眺める事も毎日の楽しみです。また、子供の時に母に連れられ、畑で過ごしたあの頃の体験、大学時代や仕事の中で覚えた植物の栽培経験が私生活におそらく繋がり、狭い我が家の庭やご近所の空地を利用し、バラを中心とした植物の栽培に熱中する休日の生活が有ります。特にバラの美しさに魅せられ、バラ園や園芸店に行く度に植物の数が増えます。また、剪定した枝から挿木で増やしたり、接木に挑戦したりと飽きることなく、忙しい週末を過ごしています。栽培したり家庭菜園で収穫したりする事は私の担当、切り取った花を家に生けたり収穫物を食卓に供することは家内の役目、庭の花を愛でるのは二人の趣味と、先に述べた山行を含めて夫婦で自然を楽しんでいます。これまでの人生が積み重なり、何かしら仕事にも趣味にも自然や農と関わってこれた事に感謝し、暫く仕事と趣味を両立しつつも、その内にどっぷりと自然に浸って暮らしたいと思う今日この頃です。

理事(会計) 宇野 雄一 (博後H8)

本年度の代議員総会は8月21日(土)、午後4時30分から神戸・元町のKUC事務局のある本館牡丹園において執り行われました。役員・代議員、60周年記念事業実行委員、来賓を含め、総勢32人が出席しました(10人の代議員は委任状提出)。総会では以下の通り事業活動および決算・予算などを審議し、承認を得ました。

- ① 第1号議案 平成21年度六篠会事業報告並びに収支決算
- ② 第2号議案 平成22年度六篠会事業計画(案)並びに収支決算(案)
- ③ 第3号議案 六篠会名簿管理
- ④ 第4号議案 六篠会賞
- ⑤ 第5号議案 農学部60周年記念事業報告
- ⑥ 第6号議案 役員変更
- ⑦ その他

はじめに、橋本堂史理事(博後H14)が開会を宣言し、物故者への追悼の意を含めた黙祷を行いました。続いて北浦義久会長(兵・A・6回)が開会の挨拶を行った後、来賓の内田一徳農学研究科長からご挨拶をいただきました。その後、議長の選出を行い、酒井修氏(兵・A・9回)にお願いしました。

平成21年度事業実績

まず、第1号議案の平成21年度事業実績については

- ① 六篠会代議員総会・理事会等の開催
- ② 農学部施設管理への支援
- ③ 学術講演会の開催援助
- ④ 入学者(修士学生を含む236名)への記念品の贈呈
- ⑤ 六甲際、六甲マラソン大会など学生活動に対する援助
- ⑥ 卒業生(181名)・修了生(116名)の卒業記念パーティ等に対する援助
- ⑦ 会報の発行
- ⑧ 同窓会の支部活動に対する援助(関東支部・東海支部・KOBES市役所支部・広島支部)
- ⑨ 退職教員への記念品贈呈
- ⑩ 学友会など他学部の同窓会との交流
- ⑪ 慶弔関連などの活動を実施しました。また、農学部創立60周年記念事業として記念式典・講演・祝賀会の開催、記念誌・写真集の発行、募金活動を行いました。さらに、新たに創設された六篠賞では、2件の業績賞、13件の奨励賞、11件の学生賞をそれぞれ選考し、表彰しました。

次に、収支決算については、前記事業実績のとおり、会報の発行、各種会議の開催、農学部や各種活動への支援といった例年どおりの予算執行のほか、六篠賞に関わる経費を支出しました。また収入は、169名の新規会員からの入会金と、名簿販売などにより、ほぼ例年通りの額を確保できました。また、支出予算として確保していた農学部創立60周年記念事業費は、醸金で賄うことができ、決算では支出なしとなりました。

監査報告については、監事である辻壮一氏(兵・Z・12回)、外山真理氏(神・C・8回)の2名を代表して、外山氏から「適正に執行されている」旨の報告がなされました。

平成22年度事業計画

次いで、第2号議案の平成22年度六篠会事業計画(案)並びに収支予算(案)については、ほぼ前年度通りの事業計画を



立て、収支予算を組みました。名簿管理業務委託先の変更に伴って生じる初期経費を予定して、卒業者名簿等管理費を多めに計上しました。

その他の議案

第3号議案では、六篠会名簿管理について、北浦会長および菅原通直理事(神・C・4回)から、名簿管理業務委託先変更の経緯について説明があり、新規契約によってランニングコストが抑えられるとの報告がありました。第4号議案では、六篠賞規約について北浦会長から変更案の説明があり、六篠賞の副賞授与は六篠会会員に限ること、ホームカミングデイにおいて一部の受賞者の表彰を行うことなどが承認されました。第5号議案では、北浦会長から、農学部60周年記念事業について、記念式典・講演・記念祝賀会・記念誌の発行・募金活動などが滞りなく終了した旨の報告がありました。第6号議案では、武正興副代表理事(神・C・3回)から、後任推薦者の宮島康彦氏(神・P・23回)の紹介があり、これを承認しました。なお、平成21年度の収支決算、平成22年度収支予算、現六篠会役員(理事・幹事・顧問)、および代議員名簿は後記しました。

報告・連絡事項

博士前期課程以降の六篠会会費の割引、六篠会会報の電子化及び英文化、庶務・会計業務の縮減、懇親会費(飲食代)の自己負担について提案がありました。これらの案件については今後の役員会などで検討していく旨、北浦会長が回答されました。最後に連絡事項として、大学と同窓生の交流の場である第5回神戸大学ホームカミングデイが10月30日(土)に開催されることについて、山本博昭理事(兵・A・12回)が案内されました。

その後、懇親の場に移って様々な話題で盛り上がり、能宗康夫副会長(兵・C・2回)の中締めでお開きとなりました。ご出席くださいました皆様、お疲れ様でした。

ホームカミングデイ

第5回 神戸大学ホームカミングデイの開催

担当理事 山本 博昭 (兵A 12回)

第5回神戸大学ホームカミングデイが2010年10月30日に各キャンパスで開催されました。この日は台風14号の影響が心配されましたが、早朝には雨が上がり、合同開催された留学生ホームカミングデイを含めたすべての催しは予定通り行われました。

午前中には、全学規模の記念式典が10時半からアナウンサー朝山くみ氏(1999年経済学部卒)の司会・進行のもと出光佐三記念六甲台講堂で開催されました。福田秀樹学長は冒頭の挨拶で、システム情報学研究科設置やブリュッセル・オフィスの開設など大学の現況を報告したうえで、「皆様のご協力を頂き、新たな飛躍に全力を挙げたい」との決意を述べられました。次に各同窓会の全学組織である学友会会長高崎正弘氏が、高齢者所在不明問題を例に「きずな」の大切さを強調、母校を核としたつながりをさらに強めるよう呼びかけました。

この後、阪神電鉄社長(阪神タイガースオーナー)の坂井信也氏(1970年経済学部卒)が「神戸大学と私-関西の活性化・鉄道と野球-」と題して講演され、学生時代の思い出や阪神なんば線の建設、タイガースの話題などユーモアたっぷりに語られました。最後に神戸大学交響楽団が「軍隊行進曲」など3曲を演奏し、式典を締めくりました。

12時頃からはアカデミア館1階食堂でティーパーティーが開かれ、グリークラブや応援団の合唱を聞きながら、多数の参加者が懇親を深めました。

午後には各学部企画が開催されましたが、以下に農学部企画についての概要を報告します。1時半から内田一徳農学部長、北浦義久六篠会会長の挨拶で幕を開け、続いて3名の演者による講演が行われました。最初は、本学の万年英之教授(1994年自然科学研究科博士後期課程修了)が、「牛肉の品質と素性を遺伝子で探る-美味しさの秘密と偽装を防ぐ鑑定法-」と題して、遺伝子情報を駆使した国産と外国産牛肉の区別を行う高精度鑑定法を確立した研究成果などを紹介、次に江崎グリコ(株)マネージャー釜坂寛氏(1987年農学部卒)が、「POs-Ca(ポスカ)の研究開発に携わって-企業ではこのような人を求めています-」と題して、ポスカ成分を利用したガムの歯に対する効用の実証例を紹介、さらに「市場動向や情報に敏感でひらめきを持つ人物を求めている」などの話がありました。最後に



学生による研究報告として、農環境生物学講座修士2回生の北岡治正氏による「神戸大学での学生生活-ミクロの世界から農業を考える-」と題する講演があり、農学部への入学や専攻講座選択の過程、現在行っている研究の内容、就職先の選び方など、自分の考え方を熱心に語られました。この後B棟101において懇親会が催され、賑やかな歓談の中で幕が引かれました。

今年の農学部企画には、昨年(農学部創立60周年記念事業の開催)に比べると参加者が少なく延べ60名弱だったと思われますが、来年は10月29日(土)に開催が決まっています。本部予算の都合で一部の方しか案内が届きませんがどなたでも参加できます。大学ホームページ等で検索の上、同窓生各位が多数参加されることを期待します。



KOBE六篠会

生物環境制御学科 内山 翔平 (神●●回)

KOBE六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在会は、会員131名(現職会員74名、OB会員51名、名誉会員6名)を数えています。

会員の採用区分は教職、農業、化学、衛生監視(農芸化学、畜産)から一般行政まで幅広く、また勤務先も小・中学校(教員)、環境局(廃棄物や環境保全に関わる仕事)、保健所や区役所(食品衛生・環境衛生・動物衛生に関わる仕事)、産業振興局(農・水産・畜産業の農政振興に関わる仕事)、建設局(道路、下水道、公園などの土木

関係の仕事)、水道局(水質検査などの仕事)のほか、フルーツフラワーパークや六甲山牧場、海釣り公園…などなど多岐にわたっており、安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となって取り組んでいます。

私は平成21年度に農業職で採用され、現在まで農業委員会事務局で勤務しています。農業委員会事務局では農地法に基づき、地元の農業委員と共に、農地の効率の良い活用実現に向けて取り組んでいます。私は主に農地の売買や農地を農地以外のものに転用する際の手続き業務を行っております。特に農地の転用に関しては、何

の手続きもせずに転用する「違反転用」が後を絶たず、優良な農地を守るためにも手続きの周知を徹底する必要があります。

また、農業委員会では「農業委員会だより」という広報誌を毎月発行しており、その作成も私の仕事です。毎月の農業委員の活動や農政に関する動向を地元農家に向けて発信しております。神戸市農業委員会のHPにも掲載しておりますので、機会があれば是非一度ご覧下さい。

昨年12月の農地法改正等、世の中の農業に関する期待が高まるなか、農政に関する仕事に携われて光栄に思うと同時に、これからも神戸市の農業の活性化に向け努力してまいりたいと思います。

なお、本会の活動は、年1回の総会・懇親会の開催と名簿の発行が中心となっています。総会・懇親会では、農学部長や六篠会会長等のご出席をいただき、大学の近況を伺ったり、思い出話に花を咲かせたり、会員間の情報交換を進めたりと親睦を深める良い機会となっています。

今後とも、「同窓生意識」をより一層高めていく努力を続けていきたいと考えています。

役職名	氏名	卒業・回生	所属(勤務先)
会長	橋本 宏之	51年・神Z7回	保健福祉局 北衛生監視事務所
副会長	渋谷 一郎	52年・神C8回	保健福祉局 環境保健研究所
〃	森川 功一	55年・神C11回	市民参画推進局 生活情報センター
〃	鈴木 壽也	59年・神P15回	産業振興局 中央卸売市場本場
幹事	八木 正博	56年・神C12回	保健福祉局 環境保健研究所
〃	長澤 秀起	57年・神A13回	産業振興局 農水産課
〃	藤井 俊宏	58年・神C14回	保健福祉局 西部衛生監視事務所
〃	安原 潤	59年・神A15回	産業振興局 中央卸売市場東部市場
〃	向井 茂樹	2年・神A21回	産業振興局 農水産課
〃	景山 敏一	2年・神T21回	みなと総局 臨海整備事務所
〃	長浜 慶治	2年・神T21回	神戸市都市整備公社 都市整備課
〃	岡野 光世	3年・神A22回	産業振興局 農業振興センター
〃	為国 司	5年・神C23回	環境局 環境政策課
〃	角村 朝葉	9年・神A28回	農業委員会 事務局
〃	大窪 道明	14年・修 29回	産業振興局 農水産課
監事	高谷 信之	52年・神A8回	産業振興局 農業振興センター
〃	平井 朗	52年・神C8回	保健福祉局 東部衛生監視事務所
〃	松宮 道生	60年・神A16回	神戸市公園緑化協会 公園緑地課



県六篠会からの報告

県六篠会副会長 福田 稔 (神戸11回)

平成22年の夏は猛暑、酷暑の文字が新聞紙上を賑わし、暑さに関する記録も各地で更新されました。

そのような中、兵庫県の2010年産水稻の作柄概況(9月15日現在)が農林水産省から発表されました。

全国の作況指数が99の「**平年並み**」に対し、本県は97の「**やや不良**」と見込まれています。これは、5月中旬から6月上旬の低温や梅雨期の日照不足等の影響により穂数が少なく、1穂当たりのもみ数はやや多くなったものの、全もみ数はやや少なくなったためのようです。

さらに、本県では北は日本海、南は瀬戸内海に面している広大な県土を有していますので、地帯別の作況指数を見ますと、県北99「**平年並み**」、県南97「**やや不良**」、淡路100「**平年並み**」と地域によってバラツキが見られました。皆さんのところはいかがだったでしょうか。

さて、平成22年度は、県六篠会の総会並びに懇親会を6月26日(土)グリーンヒルホテル明石にて開催しました。ご来賓として、神戸大学理事の中村千春先生、神戸大学農学研究科長の内田一徳先生、六篠会本部の北浦義久会長のご臨席を賜り、大学並びに農学部内外の様々な情報をいただきました。しかしながら、会員の出席は27名と少々さびしい状況にありました。

そこで、県六篠会では、来年度で設立30周年を迎えることから、記念行事を開催し、本会を盛り上げようと計画しています。行事の概要は、来年の6月上旬に神戸大学農学部で総

会、記念講演会、懇親会を行うものです。総勢216名(うち現役の県職員132名)を擁する大きな会ですので、本会会員皆様のご協力を賜り、盛会裏のうちに記念行事を終えたいと強く思っております。

さて、今回の総会で、異色の新規会員をお迎えしました。平成7年3月に神戸大学教育学部、平成9年3月に神戸大学大学院教育研究科を終了し、同年4月から林学職として本県に奉職され、本年度、県総合農政課に勤務されている山崎寛氏です。本会会員の取り扱いは、規約第5条に、「農学部や農学研究科を卒業・修了された者で本県に勤務する職員及び退職した者」の他に「総会において特に認められた者についても会員とすることができる。」とあります。このたびの総会で5条の2に基づき、新規会員の取り扱いをお諮りし、満場一致で可決され、晴れて会員とられました。5条の2の取り扱いは、初めての事案でしたが、山崎氏には念願がかない大変感激していただきました。今後のご活躍を大いに期待しております。

話は変わり、私事で恐縮ですが、農学部農芸化学科卒業で愛媛県在住の菅氏と数年ぶりにお会いしました。菅氏とは学科が異なりますが同期で、暇なときは一緒に様々な所をウロウロした仲です。菅氏と尼崎で落ち合った後、私の下宿先(芦屋市内)や神戸大学農学部、そして菅氏の下宿先(灘区篠原北町あたり)を私の車で訪れました。大学卒業後30年経過したことに加え、あの阪神・淡路大震災を経た街並み

は大きく変貌しておりますが、当時と変わらない路地や石垣が残っているところを見て二人して感激しました。

最後になりますが、六篠会会員の皆様におかれましても、時間を見つけ、是非、兵庫県そして神戸大学に足をお運びいただき、「あなたに会いたい兵庫・神戸」をみつめていただくことをお願いしまして、支部からのご報告とさせていただきます。



県六篠会総会(2010.6.26 明石グリーンヒルホテル)

関東支部(神戸大学木曜会)

関東支部長 岸谷 靖雄 (兵A10回)

六篠会関東支部を立ち上げて今年で13年目を迎える。本当に早いものである。初めのうちは東海大学校友会などの会場を使って総会を開いていたが、7年目頃から神戸大学東京凌霜クラブで開催するようになった。ところがこの神戸大学東京凌霜クラブが今年から神戸大学東京六甲クラブに改称された。神戸大学東京六甲クラブは今まで経済学部、経営学部、法学部が主になって運営されていたが、神戸大学は今や殆どの学部を有する総合大学になった。会員は95%3学部で占められていたが、これを機会にクラブの改革を行い、全学部が協力して運営していくように改める。昨年の暮れに改革プロジェクトチームが組まれた。

プロジェクトチームは

- ①組織の改善及び規約の改定と制定
- ②会員増強の具体策
- ③会費納入の増強策ならびに参加費体系の見直し
- ④名簿の整備
- ⑤ホームページの改善の5チームがあり、各学部からそれぞれに数名ずつが所属した。六篠会関東支部からは役員である田中易氏と岸谷が③に所属した。

プロジェクトチームの会合は殆ど毎月一回程度行われ、ここに来てほぼ全体像が見えてきた。これからは各学部、会員の募集に奔走する。会員募集のためのチラシや、会員になった人へのカードなどを作製、会員になった場合のメリットなどを説明する。各学部には卒業生の数から、会員募集の目標数が決った。六篠会は現在関東に約1000名の卒業生がいると思われ、会員の目標数は100名という大きな数字である。あくまで目標の数字であるが、出来るだけ多くの卒業生に会員になってもらうよう努力したい。

今年の六篠会関東支部総会は10月20日神戸大学東京六甲クラブで開催する。この原稿の締め切りが15日ということで、当日の詳細を書くことは出来ないが、北浦六篠会会長ご出席の快諾を頂いている。支部長挨拶、会長挨拶に続いて恒例の講演が行われる。今年の講演は「人の進化と食生活」と題して、兵庫県立大学名誉教授・茨城キリスト教大学教授の辻 啓介先生(兵C12)にお申し快諾を得た。食文化に関しては第一人者である辻先生のお話は今から楽しみである。講演の後は懇親会である。又現役の方からは自社の宣伝をしても良いことになっている。宣伝物の陳列も可能である。

神戸大学全学部参加の木曜会は、六篠会として7月29日

(木)を予定していたが、都合により2011年1月13日(木)に変更となった。「アフリカ飢餓問題における根寄生雑草の蔓延とその制御」という演題で、神戸大学大学院農学研究科教授 伊藤 一幸 先生(神A4)をお願いしている。アフリカにはストリガとかオロバンキと呼ばれる作物の根に寄生する雑草が猛威を振るっている。サハラ砂漠以南のアフリカの穀物において30~40%の収量がこれらの寄生により減少しているそうである。作物の作付け体系の変更、有機農業の推進、抵抗性品種の育成などプロジェクト研究の成果をお話し頂く。少し難しい演題であるが、「マンガースとハルジオン」「雑草の逆襲」などの著書があり、「雑草とは何か」と考え続けてこられた先生から、素人にも分るお話とアフリカにおける農業事情が聞けると期待している。是非大勢の参加をお願いしたい。神戸大学東京六甲クラブにおいて18時からである。その他役員会など必要に応じて開催しているが詳細は省略する。今後も支部総会、木曜会への出来るだけ多くの卒業生の参加をお願いしたい。なお支部役員は昨年とおなじである。

東海支部(役員紹介)

東海支部長 **長谷川 信弘** (兵C16回)

平成22年10月24日に東海支部総会を開催しました。1年ぶりに懐かしい顔が集いました。更に、今回は北浦会長、辻荘一先生、土田広信先生も出席され、学生時代を思い出していました。

この1年を振り返ると、東海地方でもさまざまな事件が発生しています。相変わらず食品の偽装が多いですし、今年の3月から7月にかけての、宮崎県での口蹄疫病。その影響が東海3県にも現れました。そして、暑い夏の影響で、米・野菜・キノコ等に異変が生じています。

現在、名古屋ではCOP10が開催されており、農学を学んだ我々にも、大いに関心があります。限られた水や食料、化石エネルギーで65億人の人間を養わなければならない地球。これを考えると、8月5日に発生し、10月13日に救出されたチリでの落盤事故を思い出します。地下700mの閉鎖空間で、33名が取り残されたチリ鉱山の坑道。全く、地球の現状と良く似ており、10月15日付「朝日新聞」素粒子」にも述べられています。食糧問題、環境問題を考える時、農学を学んだ我々に課題が課せられていると思います。

さて、今回の総会では北浦会長より、昨年の農学部60周年記念行事の報告がありました。講演会では、神戸大学農学部名誉教授・辻荘一先生をお招きし、講演を頂く様、計画

しました処、辻先生には快諾して頂き、最近の食肉偽装に対する対処策としてのDNA鑑定のすばらしいお話を聞く事が出来ました。出席者からは、久しぶりに大学での講義を聞いた気分だ、との感想もありました。更に、偏差値から見ると、神戸大学内での農学部の位置付けでは、昭和42年の国立移管以降、ランクアップしている事が紹介され、嬉しく思っています。その上、神戸大学ビーフの紹介では、三宮のレストラン・神戸プレジールの紹介があり、一度賞味したいと言う気分になりました。

六篠会会員の、大学を振り返る機会にしたいと考えていますので、皆様のご協力を御願い致します。



広島支部近況

広島支部長 **番匠 宏行** (兵Z13)

六篠会広島県支部を2008年に設立し、昨年は11月に第2回目の総会及び記念講演会を実施しました。今年9月25日に食農教室「燻りの館」室長金野氏(会員)の自宅(尾道市御調町)に集結し、「秋満喫!燻製と新米を食べ、ジャズピアノに浸る会」と銘打って、本部から北浦会長もご出席頂き、楽しいひと時を過ごしました。北浦会長からは昨年の60周年記念事業に関する報告や六篠賞が設立された事、大学基金の募金活動が2年前から行われ協力を要請しているが、目標金額や人数が3%前後である事、KUCの活動状況、各学部との交流事業にも力を入れていると報告を頂きました。

当日は好天にも恵まれ、2010年度支部定期総会は昨年の活動報告や今年度の活動方針などを30分という短時間で実のある審議をして決定した後、金野氏が準備した豚肉を原料とした数種の燻製や収穫されたばかりの減農薬有機栽培米に舌鼓を打ちました。燻りの館は古民家を改修し、屋内に手製の燻製釜を設置して、燻製作りや米栽培の教室がいつでも開けるようになっており、金野氏はそのリーダ的役割を担っています。

余興として、ジャズピアニスト(金野 泉=室長の娘さん)とハーモニカ奏者(斉田久美さん)の二人によるプロ演奏を聞

きました。「枯葉、ラ クンバルシータ、Let it Be」等出席者の年代に合わせた往年の名曲を約1時間楽しんだ後、ピアノ伴奏に乗り、お決まりの「デカンショ節」を始め「知床旅情」等数曲歌って場が盛り上がりました。さらに、金野氏のオカリナ演奏(これもプロ級の腕前)に合わせて「若者達」の歌も歌い、来年の再開を約束してお開きとなりました。



延喜会と神戸大学日本酒研究会

六篠会顧問 新家 龍 (兵C5回)

「延喜会」は、既に前回の六篠会報で紹介しました通り、兵庫農科大学の「醸造学研究室」の卒業生を中心にスタートし、後に広く醗酵関係の企業で活躍する多くの卒業生を含めて拡大・充実された歴史の古い六篠会支部の一つです。兵庫農科大学が昭和41年に国立移管されてからも、「延喜会」独自の研究会、見学会等を続けて会員相互の研鑽と親睦をはかってきました。

それに加えて昭和60年になって延喜会を中心に神戸大学に「日本酒研究会」を創設したのは大変印象的な出来事でした。当時、全国の各大学には学生中心の日本酒研究会が活動しておりました。不思議なことに、当時日本酒の銘醸地をひかえた神戸大学と広島大学には「日本酒研究会」がありませんでした。

そこで学生、教職員の有志に呼びかけて、他大学ではない学生・教員・事務職員の三者からなる研究会を組織することを考えました。これは神戸大学が全国で初めての「日本酒研究会」ではなかったかと記憶しております。

その設立総会が昭和61年5月16日に農学部のC101教室

において開かれ、当日は各学部から日本酒に関心のある約二百人近い人達が集まり、盛大なスタートとなりました。

第2回の日本酒研究会は、昭和62年7月31日に同じく農学部の大会議室で開かれ、特別講演として「灘の生一本菊正宗について」(岡本英輔氏)と「清酒もろみのプロセス制御」(杉本芳範氏)の2題が発表された後、菊正宗の利酒会で懇親の実を挙げることができました。

第3回以降は、会員の顔ぶれもかなり変わりましたが、灘五郷の酒造工場の見学を中心にした活動が今日まで続けられております。最近では微生物機能化学研究室の青木健次教授と農学部事務とのお世話で継続されており、「日本酒の効用」等について研鑽を積み重ねています。

日本酒の健康効果は、肩こり、冷え症、偏頭痛、ストレス解消の他に抗パーキンソン病、抗鬱病、精神安定効果、コレステロール低下作用、アレルギー抑制などがいわれており、麹菌を使う日本酒は世界でも比類のないお酒として「百薬の長」と言えそうであります。

KUCの活動について

理事 石賀 暢一 (神C1回)

同窓会の横断的な組織として「神戸大学学友会」や「神戸大学クラブ」KUC(Kobe University Clubの略)があり、大学を巡る環境は非常に厳しいものがあり同窓会の活動をより一層の活性化を図ってゆく必要があります。

KUCは現在、本館牡丹園(神戸市中央区元町1丁目11-20 Tel 078-334-1323)に事務局をおき同窓生のふれあいの場や各学部の相互交流と親睦を図る為に下記活動をしています。

(1) 定例講演会の開催(年2回 H22年は50名前後の参加)

1回目は5月11日に脳神経外科吉田病院の名誉委員長の吉田構造先生に「脳卒中治療の流れ」と題して講演をいただきました。

2回目は10月25日に神戸新聞社社長 高士 薫様に楠公園で「最近のメディア事情・神戸」と題して講演をいただきました。

(2) 各種行事の開催(年2回 前年は50名前後の参加)

1回目は2月19日に福田学長による講演会

2回目は8月18日に「ボストン美術館浮世絵名品展」

鑑賞を神戸市立博物館(鑑賞に先立ち学芸員の方に見所を充分解説して頂きました。)でおこないました。

(3) KUC同好会の開催

①KUCゴルフクラブ(年4回 前年は3、6、10、12月の開催で24名~30名の参加)

②英雄を語る会(原則として奇数月の第1火曜日に開催、前年は6回)

③囲碁同好会(原則として毎月第2土曜日に「海洋会」で開催、前年は15名~24名の参加)

④旅行同好会(年1回)

平成22年11月1日~8日の8日間で秋のラオスを訪問しました。

(4) 広報活動

神戸大学のホームページに神戸大学クラブ(KUC)の各種活動を掲載しています。

現在、六篠会での会費納入者は22名(平成22年9月現在)です、他の学部にと比べるとあと一息、他の飲食店等の割引もあり、皆様のご加入を願っております(ご加入は上記事務局へ)。

資源生命科学専攻・応用植物学大講座 —植物遺伝資源開発学

講師 片山 寛則
助教 山崎 将紀

今回は加西市の附属食資源教育研究センター(旧附属農場)にある植物遺伝資源開発学教育研究分野(旧作物生産科学)について紹介します。当研究室は1999年から始まった比較的新しい研究室です。これまで河野和男教授(1999年～2004年度)、保坂和良教授(1989年～2009年度)、小林伸哉助手(1994年～2005年度)が在籍していました。現在は片山寛則、山崎将紀の2名で研究室を切り盛りしています。1999年に初めて3名の大学院生を迎えた後、これまでに9名の大学院生(博士課程終了者2名を含む)、7名の学部生が修了・卒業しました。河野教授はご専門のキャッサバの育種に関する論文のみならず、趣味の昆虫の進化に関して多くの著名な論文を発表されました。また科学者の社会的責任についても関心を持たれ「自殺する種子」など多数の著書を執筆されました。2007年からは当研究室は植物資源学科(現応用植物講座)に所属することとなり学部生の配属も始まりました。保坂教授は本年4月に農研機構北海道農業研究センターに転出されるまで一貫してバレイショの遺伝育種学的研究に携わられました。栽培バレイショの起源をDNAから明らかにしたり、DNAマーカーによる耐病性遺伝子のマッピング、雑種強勢機構への分子的アプローチなど多くの重要かつユニークな成果をあげられました。また長年にわたりセンター主事を兼任され、食資源教育研究センターの研究・教育レベルの向上、技術職員の待遇改善などに尽力されました。お二人の研究面での共通点は遺伝資源の重要性を熟知され、広大な圃場で多くの系統を育成

し、それらを材料として他に類をみない研究を展開されたことでしょう。

当研究室は伝統的に植物育種分野の教員で構成されており、遺伝子レベルの基礎研究から新品種育成といった応用研究まで行っていることに特徴があります。現在、イネを材料とした研究では、山崎が農業形質やそれに関与する遺伝子について様々なアプローチで分析しています。これまでに500以上の栽培イネ品種・系統を収集し、これを元に数千の交雑系統を育成しています。これまで変異が少ないと考えられた日本水稲品種の分類を試みて、その分化が明らかになりました。この情報を利用して、ヒトで多用されているゲノムワイドな関連解析を日本水稲品種で確立しました。また穀物のDNA塩基配列の多様性を使った人為選抜の理論を確立しました。一方、試験場が開発した新品種を積極的に栽培し、イネ育種の現場との共同研究を行っています。果樹類では片山が国内外のナシ属遺伝資源を用いて研究を進めています。中国の東北部に自生する秋子梨(野性ナシ)の起源をDNAレベルで調べたり、日本の東北地方に自生する野性ナシ約750個体を収集保存して国内唯一の野性ナシジーンバンク事業を展開しています。これまでに野性ナシの遺伝的な集団構造を調べることで保全すべき集団を明らかにしました。また現在では利用されていない野性ナシや過去のナシ在来品種の有用形質(香り、酸味、甘味、機能性成分、抗菌作用、無核性、貯蔵特性など)を分析して遺伝学的研究を進め、品種育成の母本として利用したり、果実の加工など



新たな利用方法を見出し現代に蘇らせる研究を行っています。

現在、当研究室には大学院生7名、学部生6名が所属しています。以前のような学生不在の農場とは様変わりし、にぎやかな研究室になりました。加西市という遠隔地にありながらも学生たちが農場での学究生活を志向してくれるのは、農場の持つ資源の魅力だけでなく、これまで多くの方々で農場の環境改善にご尽力下さった結果に他なりません。是非、進化した附属農場にお出かけ下さい。

食料共生システム学専攻・食料環境経済学大講座

— 食料経済学

食料経済学教育研究分野は2010年3月に加古敏之(現名誉教授)が定年退職し、現在、草苺 仁(教授)、中塚雅也(自然科学系先端融合研究環助教)と、農学研究科研究員1名、博士後期課程4名(うち学振特別研究員1名)、博士前期課程3名、研究生2名、学部4年生3名の体制で、食料に関する社会経済問題について教育・研究を進めています。以下に、私たちの研究内容について紹介いたします。

経済学では私たちの生活に有用なモノのことを「財(ざい)」と呼びますが、「食料」は私たちが生活していくために必要な財であり、「無いと困るけれど、たくさんはいらない」という特徴があります。食料に関わる社会経済問題は多岐にわたっていますが、こうした一見当たり前の特徴が、食料に固有の問題を引き起こしています。かつて日本でも「無いと困る」食料の増産が社会の重大事であった時期がありました。しかし、経済が成熟するにしたがって人口増加率は低下していくので、コメ余りのように、やがて食料が余る事態に立ち至ります。「たくさんはいらない」食料は、家電製品のように絶え間なく新製品を開発して需要を創出することが苦手な財なので、供給超過状態を放置すると価格が急速に低下して、産業間の所得格差が拡大します。そのため、先進国では国内農業を保護することで所得格差を是正することが政治的な課題となります。例えば、代表的な食料輸出国である米国は、国際間の貿易交渉では自由貿易を主張する一方で、国内農業は強力に保護しています。それでは肝心の日本はどうかというと、日本は半世紀前から規模が大きく生産性の高い経営体を育成することで、国内農業の競争力を向上させようと試みましたが、政治的に政策が歪められたことなどから、食料自給率(供給熱量ベース)で評価すると、最近では先進国の中で最低水準の40%前後にまで凋落したことが知られています。

食料経済学分野では、こうした状況を改善するための政策研究を行っています。その1つ目は、生産性の高い経営体に農地を集積するという、半世紀にわたって未達成な政策課題を促進するための研究です。また2つ目として、収益性が悪化して弱体化の目立つ米作部門を立て直すために、生産調整や所得補償(収入変動緩和対策、戸別所得補償)のあり方を問う研究が挙げられます。これらの研究は計量経済分析という数量化手法で客観的・具体的に結果を提示できる点に特徴があります。先に農産物輸出国でも国内農業を保護していると述べましたが、環境保全に対して直接支払いを実施しているEUなどと比較して、日本は農業への所得移転に対する国民の許容度が小さい国であるといえます。そこで3つ目の政策研究として、農業を食料と環境財(環境保全機能など)の2つを同時に供給する産業であ

ると捉えて、日本のように農業が比較劣位な国であっても、環境財の供給を評価すると、国内農業の存続が社会的に望ましいことを示すための研究を行っています。

さて、食料自給率の凋落ぶりは、戦後になって日本人の食生活が大きく変化したにもかかわらず、食料を供給する農業の構造調整が遅れたことによってもよっています。食料経済学分野では、供給サイドの政策分析と同時に、需要サイドの分析として食生活の変化に関わる研究を実施しています。戦後、日本人の食生活は洋風化(欧米化)したといわれますが、この洋風化には米国の余剰農産物処理や厚生省(当時)の食育(栄養教育)が大きく関わっています。食生活の変化というと、私たちが自発的に食事のメニューを変更したと考えがちですが、いわば官主導の変化であったといえます。この洋風化にやや遅れて、1970年代辺りから調理済み食品や外食への支出割合が増加して、食生活の外部化が本格化しました。この方面の研究では、手間のコストである賃金の上昇と、世帯規模(家族の人数)の縮小が外部化の主要因であることを指摘しています。また、食生活が外部化したことで家族の団らん時間が減少し、個食化が進むなど、家族機能が弱体化して、このことが社会不安の要因となっています。これは家計がモノやサービスなどの私的財への支出を優先させて、公共財(家計内公共財)の供給をおろそかにした結果であることを、理論分析で明らかにしました。現在の日本社会が「何となく暮らしにくい」といわれる背景には公共財の供給不足が関わっているため、農村の活性化やコミュニティの再生、都市・農村交流、食農教育、NPOの社会的役割など、公共財供給を促進するための実践的な研究も併せて実施しています。

以上の研究活動を含む講座の情報についてはホームページに掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-agecon/index.html>)。今後とも食料経済学分野をよろしくお願い申し上げます。



生命機能科学専攻・応用生命化学大講座 —生物機能開発化学

教授 芦田 均
(神C14回、修12回)

生物機能開発化学教育研究分野は、2004年4月1日に『優れた生体機能や機能分子を見出し、健康・食糧・環境に関わる諸問題に立ち向かう研究の遂行と、そのための人材育成』を目指して新設された研究室です。本教育研究分野の研究に関するキーワードは“フロンティア”です。未知なる有用生体機能や機能分子を探索するフロンティア、生理学・生化学・遺伝学など異種学問分野の融合が生み出すフロンティア…「未開の土地(フロンティア)」に挑みます。私たちは、健康問題を緩和・解決する機能分子の開発、低コストでの作物増産を目指す生体機能の強化、環境改善に役立つ生体機能の探索などに関する研究を行っています。

研究室が設立された日は、ちょうど神戸大学が民営化された日であり、必然的に当研究室は国立大学法人神戸大学とともに歩むことになりました。創立以来の年月は短いですが、激動(?)の歴史をご紹介します。

創立時の研究室メンバーは、農学部から配置換えで移った芦田と福山大学から着任した吉田健一助教授、大学院自然科学研究科博士課程後期学生1名、同前期課程学生6名、学部生4名と研究生1名の総計14名でした。教員二人の専門領域は異なっていましたが、お互いの研究領域での研究を継続しつつ、相互間での情報や技術の融合から、新たな研究テーマや既存のテーマへの新規アプローチが芽生え、さまざまな研究が進展しました。2006年には、神戸大学農学部設置された食の安全・安心科学センターに、本教育研究分野で最初に博士号を取得した福田伊津子助手が赴任し、同センターと食の安全性に関わる研究テーマのコラボレーションが始まりました。2007年には大学院化に伴い、教員が農学研究科に配属されるとともに職階の名称変更もありました。さらに、この年設立された神戸大学自然科学系先端融合研究環の「農学系ヘルスバイオサイエンス」チーム(代表:水野雅史教授)に芦田と吉田准教授が加わり、ヘルスバイオサイエンスに関わる研究に重点を置くようになりました。2008年からは、文部科学省の科学技術振興調整費「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」に芦田と吉田准教授が参

画しており、「バイオプロダクション」に関する研究も重点的に展開しています。同年秋からはこのプロジェクトでの採用として川畑球一特命助教と鈴木宏和特命助教がメンバーに加わりました。また、中国武漢大学のAssociate professor であるXu Xiaojuan氏が旧本学術振興会の海外特別研究員として来日して、2010年10月末まで研究を行っています。2009年12月に、吉田准教授が微生物機能化学の教授に就任することになり転身しました。これに伴い、鈴木特命助教も移動しました。一方で、鶴田祥子博士研究員と山下陽子研究員が加わりました。2010年3月から、福田助教が産休に入り、現在は育児休暇中です。3月末に、川畑特命助教が福井県立大学生物資源学部機能食品学分野に助教として就任のため転出しました。同時期に山下研究員は退職し、4月から博士後期課程学生となりました。新たに、中村俊之博士研究員と保田倫子博士研究員が4月からプロジェクト担当として加わりました。また、創立以来7年間で6名の課程博士が研究者として巣立ち、論文博士も2名輩出しました。2010年10月15日現在のメンバーは、正規教員は芦田1名ですが、海外特別研究員1名、博士研究員3名、大学院博士課程学生3名、同前期課程学生8名、学部4年生6名、研究生3名、補佐員1名の総勢25名です。

創立以来7年間で研究室の引っ越しも4回行いました。創立時にそれぞれが元の研究室から農学部E棟5階に身の回りの品を運び込み、試験管1本から買い揃えて研究室を創りました。農学部学舎改修に伴い、D棟4階に一時的に疎開し、改修が終わったE棟5階に戻りましたが、それをつかの間で、農工連携拠点のクロスラボとして新設された自然科学総合研究棟4号館5階に引っ越して現在に至ります。このクロスラボでは、糖鎖機能化学と微生物機能化学のメンバーとも分け隔てなく一緒に研究を進めています。現在改修中の農学部F棟の工事が終わると、研究室の一部を元の農学部E棟5階に戻す予定です。

本研究室の主な研究テーマは、「ダイオキシン毒性の抑制に働く機能性分子の探索とその作用機構の解明」、「肥満や糖尿病などの生活習慣病を予防する機能性分子の探索とその作用機構の解明」、「グルカンの増産とそれを用いた機能性食品の開発のための基礎研究」、「逆遺伝学的見地からの枯草菌のイノシール代謝の全貌解明とイノシール関連物質の生産効率の向上」、「ダイズ根粒菌の根粒形成に影響を及ぼす因子の探索とその機能評価」などを手掛けてきましたが、後ろの二つは吉田教授のテーマであり、現在は微生物機能化学教育研究分野で行われています。研究成果は、学術論文や学会などで広く公表するとともに、産学連携についても積極的に取り組んできましたし、これからも推進していきます。

六篠会会員の皆様方から見れば、新参者の研究室ですが、これからは教育・研究に精進して学生諸子と一緒に一丸となって研究室の発展を目指して頑張っていく所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



生命機能科学専攻・農環境生物学大講座 細胞機能構造学

卒業生の皆様、お元気でご活躍のことと思います。今回は我々の細胞機能構造学の研究室について、ご紹介いたします。

細胞機能構造学研究室は農学部では新しい教育研究分野です。当研究室は昔から農学部が存在したものでなく、今から13年前に作られました。この新しい教育研究分野は、農学部がより活性化するように、汎用性が高く、専門性を有した手法を駆使できる分野が望ましいと期待を受けました。農学部では最新型の電子顕微鏡の設置があったものの、これを十分に使いこなせる専門家がいなかった事情もあり、新設の分野は電顕を含む細胞学を行う教員が指導する研究室となり、私が農学部へ赴任しました。今年で、赴任して13年目になりますが、依然として農学部では歴史の新しい教育研究分野であることに変わりはありません。現在、研究室は、教授1名、助教1名、ポストク1名、大学院後期課程2名、大学院前期課程2名、学部生6名から構成されています。来年4月から大学院前期課程2名と学部生5名が研究室に加わることとなります。

自然環境では生物は生物・化学・物理ストレスにさらされて生きています。ストレスに応答する際に細胞は別の機能状態に入り、過剰なストレスをうけると細胞や細胞内小器官の形が変わります。我々はこの構造変化を電顕・光顕で観察して意味ある細胞機能を大抵解析することが出来ますが、形態だけを観察しても細胞機能が分からないこともあります。同時に生化学・分子生物学的方法を併用して細胞の機能を評価すると、より意味ある結論が得られます。当研究室では電子顕微鏡技法は朴杓允が教え、分子生物学・生化学は池田健一先生が教えています。行われている研究は感染応答時のカビ・植物の細胞機能解析と電子顕微鏡技術の開発です。例えば、病原糸状菌の感染菌糸端における活性酸素種と病原性との係わりを研究するグループ、2)病原菌の宿主表面に粘着する糖タンパクの特性研究、3)菌核形成に及ぼす活性酸素の役割、4)カビによる菌核形成の阻害研究、4)宿主特異的AK毒素の作用点と病理学的評価、5)ウイルスによる土壌病原菌増殖の制圧の研究、5)他研究室(植物病理学、昆虫科学、土壌学、熱帯作物学、植物遺伝学、植物機能科学、生物科学、土地環境学、農産食品プロセス学)との共同研究、6)学外の研究機関との共同研究、7)新規な電子顕微鏡技術の開発、が活動の中心とな

教授 朴 杓允

ります。私たちの研究室では、やる気になれば、学生は電顕と分子生物学の2つの手法を手に入れることができます。研究を志向する学生には良い状況が揃っているのですが、あまり気づいた様子はありません。電子顕微鏡法は困難な手法ですからこの方法を短時間で修得することは普通できません。しかし、何人かの学生は高度なスキルを有し、その結果、就職することができたこともあります。現在は池田健一先生に電子顕微鏡技法を教えている途中です。何れ同先生は細胞学と分子細胞学の2つの手法を駆使できる教員になれるでしょう。

写真1は助教の池田健一先生、学位を取ったばかりの井上加奈子さん(現在のポストク)と玄康洙さん(土佐幸雄先生のポストクに採用)、と私が映った記念写真です。写真2は2年前の私の還暦のお祝いの会です。当時の学生が映っています。

教育研究において同窓生の皆様方には大変お世話になっています。今後とも何かとご指導頂くこともあると思います。その折はよろしく願いいたします。



写真1



写真2

六 篠 賞

六篠業績賞を受賞して

平成22年3月25日に開催された農学部・農学研究科卒業及び修了記念パーティの席上において、栄えある六篠業績賞を賜り、誠に光栄に存じます。この賞の授与に関してご検討いただいた方々、六篠会事務局の方々、さらに六篠会会員の皆様にご心より御礼申し上げます。

私は、平成21年8月に農業農村工学会賞(学術賞)を受賞しておりますが、同賞を授与している(社)農業農村工学会(旧農業土木学会、会員数は約1万人)が全国規模以上の学会に該当し、また同学会の学術賞が個人に授与される最高位の賞であることから、今回の受賞の栄に浴することができたと思います。このように六篠業績賞の根拠となった農業農村工学会賞の受賞題目は、「河川流域の洪水・渇水予測に関する一連の研究」ですが、以下では、その受賞業績を簡単に紹介させていただきます。

この業績は、農業に不可欠な水資源の計画と管理に資するもので、次の三つに大別できます。第一の業績は、流域変化及び温暖化に伴う洪水・渇水流量変化の評価と予測に関する研究で、農地造成が流域の水収支や流出特性に与える影響を明らかにするとともに、温暖化が流域水循環に及ぼす影響についても検討しました。第二の業績は、洪水・渇水流量の実時間予測

神戸大学大学院農学研究科

田中丸 治哉

に関する研究で、降水量などの観測データから河川流量を計算する数理モデルの一つである長短期流出両用モデルに、適応制御理論として知られているカルマンフィルタを導入した洪水予測システムを開発しました。第三の業績は、流出モデル定数の大域的探索と多目的最適化に関する研究であり、これは、生物進化の概念を応用したアルゴリズムである進化型計算法による大域的探索を流出モデルのパラメータ決定に導入するとともに、洪水時と低水時の河川流量の再現性を両立させるための多目的最適化を実現したものです。なお、第二の業績として挙げた洪水予測システムは、実際に近畿地区の複数ダムでの流水管理に長年利用され、ダムの安全管理に貢献しており、学術上の貢献だけでなく、研究成果の社会的な有用性も評価していただくと考えております。

農学部創立60周年記念事業の一環として六篠賞が設立され、その初代受賞者に選んでいただくという幸運に恵まれて、喜びもひとしおです。今後も精進して新たな研究成果を目指す所存ですが、いつか指導学生が六篠賞を受賞できるように、教育や研究指導にも力を入れたいと思います。最後に、ご指導いただいた先生方、一連の研究の遂行にご協力いただいた論文共著者、学生・院生諸氏に厚く御礼申し上げます。



六篠業績賞を頂いて

この度は、六篠業績賞を賜り誠にありがとうございました。今回の受賞に関しましては、昨年7月に受賞した森喜作賞を評価いただいたものだと思っております。この森喜作賞ですが、財団のHPから引用させていただきますが、「しいたけ等きのご類の普及・振興の功労者である故森喜作農学博士(メダルの写真の方)の遺志を継承し、広くしいたけ等きのご類の調査研究に顕著な功績のあった者、およびしいたけ等の栽培の優良経営者に対する顕彰を行い、もって我国のしいたけ産業の振興に寄与することを目的とします」となっており、受賞対象者は第一部門「しいたけ等きのご類の調査・研究および普及」と第二部門「しいたけ等きのご類の栽培の優良経営」が設定されています。今回の受賞は、このうちの第一部門での受賞となります。受賞対象の研究としては、シイタケ中に含まれる高分子多糖で抗腫瘍性を始めとする生理機能を有するレンチナンというグルカンにつ

神戸大学大学院農学研究科 生命機能科学専攻
応用生命化学講座 糖鎖機能化学教育研究分野

水野 雅史

(神C15回、修13回)

いて、

- (1) レンチナンの簡便かつ迅速な定量法の開発
- (2) レンチナン含量を維持するための貯蔵条件の確立
および
- (3) 腸管を介したレンチナンによる免疫賦活化機構の解明
など農学の分野から医学の分野にわたる研究が評価されたものと思っております。最後になりましたが、今回の受賞に際しましてご検討いただきました六篠会関係各位には厚くお礼申し上げます。また、今回の受賞は、ご指導いただきまして先生方、またこれまでの研究を支えてくれた卒業生ならびに研究室の院生・学生さんにはこの場をもって厚くお礼申し上げます。今後は六篠会出身者としてさらに教育研究に精進し、社会に役立つ卒業生を排出していく所存ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

六篠奨励賞を受賞して

1999年に神戸大学の博士課程に入学し(57歳)、殺ダニ剤ピフェナゼートのダニに対する作用機作の研究をはじめた。指導教官の竹田先生からの示唆で、分子生物学的および電気生理学的なアプローチで進めた。すでにGenBankへ登録したナミハダニGABA受容体のアミノ酸配列から、完全長のcDNAの分子クローニングを始めた。外資系会社の日本社長の仕事を兼ねながら、大学を休学したり復学しながら東京から大学研究室へ通い続けたが、予想外に難航した。2007年4月舌ガンと診断され、緊急に手術入院することとなった。けれども、研究の興味を断ち切ることができず、4カ月の空白ができたとしても発声に支障きたすものの、東京で月一回の検診とリハビリを続けながら、研究室へ復帰した。2008年に紆余曲折を経てやっとナミハダニの新規GABA受容体(TuGABAR)の獲得に

成功した。直ちに実験設備のある近畿大学に通い、アフリカツメガエル未受精卵に本受容体のcRNAを注入・発現させ、卵膜上に発現したGABAの特性を確かめた。TuGABAR受容体の発現した卵母細胞へGABAを処理し、用量依存的に増幅する応答を示すことを確認した後ピフェナゼートを処理した。しかし、単独で処理しても応答が無かったが、ピフェナゼートとGABAとを同時処理でGABA単独処理区の応答よりも数倍もの強い応答が得られた。本剤はTuGABARに対するenhancer (synergist)として作用することが判明し、従来の殺ダニ剤ではなかった新たな作用機構をもったカテゴリーを追加することとなった。2010年3月に11年越しのこれらの研究で博士号の授与および六篠賞の受賞が決まり、竹田先生をはじめ研究室の方々に感謝をしています。

農業環境生物講座
落合 憲光



六篠奨励賞を受賞して

この度、私が六篠賞を受賞できたことは、ひとえに農学研究科食料共生システム学の内田一徳教授ならびに河端俊典准教授のご指導あつての賜物と心よりお礼申し上げます。また、同じ研究室の先輩や後輩の支えや、同回生の切磋琢磨による成果であり、大変感謝しております。私の研究は、「圧力管曲部軽量スラスト防護工法の動的挙動の検討」や「同一環剛性を有する管厚の異なるたわみ性パイプの力学的挙動の研

究」など、パイプラインを主とした耐震性や力学特性について、実験や解析を行いました。日夜、試行錯誤を重ねながら研究に傾注し、これらの研究成果を国内の学会はもとより、海外の学会でも快く発表させて頂き、大変貴重な研究生活を送ることができました。

現在は、独立行政法人水資源機構で勤務し、学生時代に学んだ農業土木分野に貢献できるよう、日々精進しております。

生物環境工学講座
泉 明良

六篠奨励賞を受賞して

この度、長い歴史を持つ六篠会が創設した第1回の六篠奨励賞を受賞することができ、心より嬉しく思っております。研究を行うに当たり、お世話になった皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

大学院では「マラウイにおける稲作に関する総合的考察」という研究テーマの下、東アフリカのマラウイに計5ヶ月滞在し、ベースライン調査、省力化試験、品種栽培試験、食味試験等を行いました。そして、論文の最後に「農業は農業体系・栽培技術・食生活など様々な形で地域に根ざした固有の文化を有する風土産業であるから、サブ

サハラアフリカにおける稲作振興が包括的に進むよう、各地域や農業生態系に合った稲作のあり方を模索・検討するとともにその方向性を示していく必要がある」とまとめました。

その想いを胸に、現在は農業開発コンサルタントとして、主に西アフリカのシエラレオネにおいて、稲作技術の改善と普及に携わっています。当面、年の半分は現地で過ごすことになりそうですが、大学院で得た知識をさらに深め、広い視野を持った国際人として活躍できるよう、これからも研鑽を積んでいきたいと思っております。

応用植物学講座
竹村 光春

平成21年度庶務報告

平成21年度の一般事業として入学者記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学友会・KUC援助、農学部援助、六甲祭援助、六甲マラソン大会援助、退職教員記念品贈呈、手提げ袋贈呈、卒業祝賀会援助、慶弔関連などを行い、学術振興事業として「植物機能化学」・「花卉野菜園芸学」の教育研究分野主催学術講演2件に対して、援

助を行いました。また、農学部60周年事業として記念式典・講演・祝賀会の開催、記念誌・写真集の発行、募金活動を行いました。

平成22年度についても、例年同様、一般事業および学術振興事業を維持していくことが総会で承認されましたので、それに基づき現在活動しているところです。

■役員

会長(学友会)	北浦 義久	(兵 A 6)
副会長(KUC)	能宗 康夫	(兵 C 2)
副会長(学友会)	王子 善清	(兵 C 12)
副会長(代表理事/KUC)	中村 直彦	(神 Z 1)
副会長	伊藤 一幸	(神 A 4)
副会長	橋本 宏之	(神 Z 7)
副会長	三浦 恒夫	(神 A 9)
理事	大西 成己	(鶴 3)
理事	阪上 昭宏	(鶴 3)
理事	三木 啓造	(兵 Z 9)
理事(ホームカミングデイ)	山本 博昭	(神 A 12)
理事(KUC)	石賀 暢一	(神 C 1)

■役員

理事(副代表理事)	宮島 康彦	(神 P 23回)
理事(名簿)	菅原 通直	(神 C 4)
理事(会報)	相野 公孝	(神 P 12)
理事(庶務)	橋本 堂史	(博後H 14年卒)
理事(会計/会報)	宇野 雄一	(博後H 8年卒)
監事	辻 莊一	(兵 Z 12)
監事	外山 眞理	(神 C 8)
顧問(学友会)	西川 欣一	(兵 A 1)
顧問	東 順三	(兵 C 1)
顧問	田中 平義	(兵 C 1)
顧問	新家 龍	(兵 C 5)

■六條会代議員

松浦 良彦	(兵 A 1)
安尾 勲	(鶴 2・兵 C 5)
土佐 正	(鶴 4・兵 A 7)
財田 福雄	(鶴 5)
小田垣博三	(兵 A 9)
酒井 修	(兵 A 9)
住田 昭男	(兵 Z 10)
坂井 永利	(兵 A 12)
永吉 照人	(兵 A 13)
置塩 康之	(兵 A 14)
松井 功	(兵 T 16)

■六條会代議員

西尾 司	(兵 Z 16)
中西 三生	(兵 Z 17)
得丸 哲士	(神 Z 2)
松本 幹夫	(神 A 3)
矢代 学	(神 P 10)
門岡 織江	(神 P 17)
八木 剛	(神 P 22)
鈴木 武志	(神 C 23)
岸谷 靖雄	(兵 A 10) 関東支部長
長谷川信弘	(兵 C 16) 東海支部長
番匠 宏行	(兵 Z 13) 広島支部長

●学術講演会援助

教育研究分野	開催日	講演題目(講演者)	参加数
植物機能化学	2009/06/26	化合物の元素組織変化の網羅的解析と帰納的メタボロミクス (大阪府立大学大学院 教授 太田 大策) 植物病害抵抗性とクマリン生合成 (東洋大学 准教授 清水 文一)	25名
花卉野菜園芸学	2009/11/25	緑膿菌バイオフィーム形成機構の解明とそのコントロール (米国テキサスA&M大学博士研究員、上田 晃弘 博士)	20名

■慶弔関連

以下の方々をご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
(順不同・敬称略)

西村 結城 (職員)	波部喜代志 (兵 C 5回)
井関 徹三 (修9回)	福島 豊一 (旧教員)
片瀬 正之 (兵 C 4回)	西村 功 (旧教員)
櫻井 隆雄 (兵 A 3回)	三浦 晋 (鶴 1回)
沢井 伸光 (修9回)	水野 利雄 (旧教員)
谷口 健 (兵 A 11回)	山本 治 (兵 C 1回)
丹下 宗俊 (旧教員)	宮本 セツ (旧教員)
寺分 元一 (旧教員)	清水 克彦 (神 P 14回)
中浜 光生 (兵 Z 11回)	清水 晃 (旧教員)

■退職および着任教員

退職および着任された先生方をお知らせします。(敬称略)

●定年退職された職員(平成22年3月31日退職)

加古 敏之	(食料経済学)
佐々木 満	(天然分子有機化学)
阿江 教治	(土壌学)

●退職された教員(定年延長のため22年度に定年退職される先生はございません。)

保坂 和良	(食資源教育研究センター)
-------	---------------

●着任された教員

白井 康仁	(動物資源利用化学)
黒田 慶子	(資源生命科学専攻、応用植物学講座)

●六篠賞

	受賞者	受賞対象(奨励賞は論文課題)
特別賞	該当者なし	
業績賞(2件)	田中丸 治哉(水環境学)	平成21年度農業農村工学会賞(学術賞)(2009/08/04)
	水野雅史(糖鎖機能化学)	第31回 森喜作賞(2009/07/07)
若手賞	該当者なし	受賞対象(奨励賞は論文課題)
奨励賞(13名)	博士課程:農環境生物学講座(1名)	落合 憲光 ナミハダニ属特異的殺ダニ剤ピフェナゼートの特性と殺虫機構:特異的殺虫剤の開発のための基礎
	修士課程:生産環境工学講座(2名)	泉 明良 同一外圧剛性お有する管厚の異なるたわみ性パイプの力学挙動に関する研究
		柏木 歩 埋設管路屈曲部の背面地盤補強によるスラスト防護メカニズムに関する研究
	修士課程:食料環境経済学講座(1名)	阪本 亮 米政策の転換期における稲作の構造変化と不確実性に関する経済分析
	修士課程:応用植物学講座(2名)	竹村 光春 マラウイにおける米生産に関する総合的考察
		沼口 孝司 Fing mapping of the gene for non-spreading panicle in rice For understanding rice domestication-
	修士課程:応用動物学講座(2名)	荒蒔 祐輔 アジア産の希少ヒト上科霊長類における人工繁殖の試み
		平島友美子 p27kip1によるマウス卵母細胞の発育開始制御
	修士課程:応用生命化学講座(2名)	杉本 元 ベンジルイソキノリンアルカロイド生成に関わるシトクロームP450の探索
		土井 智子 オロパンキの寄生に対する根粒菌共生の影響
	修士課程:農環境生物学講座(3名)	井上 喜博 エンバクイもち病菌のコムギに対する非病原力遺伝子PWT4のクローニング
		下井 沙紀 コラゲナーゼ活性を有する微生物を利用したイネいもち病防除法の確立
		目黒 紘子 各種病原糸状菌におけるcAMP経路の病原性に及ぼす影響
学生賞(11名)	応用動物学科(2名)	谷口 和美 ・ 尾崎 薫
	植物資源学科(2名)	玉井 大地 ・ 森岡 沙織
	生物環境制御学科(2名)	踞尾みのり ・ 藤原さおり
	生物機能化学科(3名)	大下 恵実 ・ 野村 亮介 ・ 長谷川 綾香
	食料生産環境工学学科(2名)	水谷 良 ・ 竹林 尚人

●21年度事業報告 一般事業

項目	時期	内容
入学者記念品贈呈	4月	進入学者196名の内、169名入会
活動援助	KUC	運営委員会(4回) 講演会(2回)及び行事(2回) 「神戸大学学長を励ます会」 進水式(川崎重工業株式会社) 定例講演会「民主党政権のこれから」 新春講演会「企業経験を神戸大学に生かす!」
		支部総会
関東	10月	支部総会10月16日(北浦会長出席)
県六篠会	10月	支部総会10月11日(北浦会長出席)
東海	10月	支部総会10月25日(北浦会長出席)
KOBE六篠会	11月	支部総会11月6日(北浦会長、内田農学部長出席)
広島	11月	支部総会11月14日
六甲祭援助	8月	11月14日、15日開催
農学部援助	7月	施設使用料及び運営費
	11月	
会報発行	12月	7,800部(7,387部発送)
六甲山マラソン大会	12月	12月19日開催
卒業式用手提げ袋贈呈	3月	卒業生181名(内2名は9月卒業)
卒業記念パーティ援助	3月	修了生116名(内1名は9月修了)
定年退職教員記念品贈呈	3月	佐々木先生、阿江先生、加古先生(計3名)

●純米大吟醸「神戸の香」をご利用ください

「神戸の香」は、神戸大学が企画した純米大吟醸酒です。農学研究科 附属食資源教育研究センターで、酒米「杜氏の夢」を厳しい安全管理のもとに栽培し、酒造りで名高い富久錦が丹精込めて醸造した産官学連携による高品質のお酒です。

加えて、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の岸本吉弘画家および神戸大学名誉教授の魚住脚山書家により醸し出される気品高いラベルに包まれて大変好評を得ている神戸大学ブランド品です。

神戸大学ブランド品「神戸の香」を是非ご賞味ください。

神戸大学支援合同会社(神大LLC)では、同窓生の皆様の懇親会やご贈答品としてご利用いただくためのサービスに努めております。

ご注文は、

- 1) 神大LLCのホームページ(神戸の香)
- 2) TEL/FAX(078-881-6826)
- 3) Eメールshop@kobe-u-llc.co.jp
にてご連絡ください。

値段は、1本3,000円(税込、送料別)です。

5本以上のご注文いただきますと、追加サービスを致します。

是非ご連絡を!! お待ちしております。

神戸大学支援合同会社

(<http://www.kobe-u-llc.co.jp/>)



平成21年度事業報告・決算

平成22年度事業計画・予算

六篠会 平成21年度一般会計決算

収入	11,084,191円
支出	10,351,690円
残高	732,501円

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
入会金	7,000,000	6,705,390	-294,610	40,000円×169名 (指込手数料54,610円)
雑収入	1,000	9,192	8,192	普通預金口座利息 および名簿販売
前年度からの繰越金	4,369,609	4,369,609	0	
合計	11,370,609	11,084,191	-286,418	

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
農学部援助金	550,000	550,000	0	構内整備費、振込手数料
一般事業費				
会報発行費	1,500,000	1,493,564	6,436	年一回(約8,000部)
各種活動援助費	700,000	411,470	288,530	支部活動、学生活動支援
卒業記念祝賀費	350,000	443,482	-93,482	祝賀会援助、紙袋代
卒業生名簿等管理費	100,000	93,944	6,056	
農学部60周年事業費				
記念事業援助費	3,000,000	0	3,000,000	
活動経費-事務費	500,000	0	500,000	
代議員総会経費	1,000,000	738,325	261,675	総会経費
一般事務費	500,000	569,635	-69,635	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	300,000	283,230	16,770	理事会
旅費	100,000	87,480	12,520	
慶弔費	250,000	119,438	130,562	定年退職教員への記念品、電報等
交際費	230,000	79,997	150,003	KUC活動費
褒賞費	100,000	0	100,000	
役員活動費	550,000	370,600	179,400	
神戸大学学友会費	120,000	110,525	9,475	年会費、編集委員会費等
繰り出し金	0	5,000,000	-5,000,000	
予備費	1,520,609	0	1,520,609	農学部創立60周年記念事業費
支出合計	11,370,609	10,351,690	-1,018,919	
次年度への繰越金	0	732,501	732,501	
合計	11,370,609	11,084,191	-286,418	

六篠会 平成21年度六篠会基金決算

収入	41,645,843円
支出	809,436円
残高	40,836,407円

収入の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
前年度からの繰越金	36,613,515	36,613,515	0	
繰入金	0	5,000,000	5,000,000	一般会計からの繰り入れ
雑収入	5,000	32,328	27,328	大口定期・普通預金利息
合計	36,618,515	41,645,843	5,027,328	

支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
学術活動援助費	400,000	40,000	-360,000	20,000円×2件
六篠賞	1,000,000	769,436	-230,564	副賞、賞状
海外渡航援助費	500,000	0	-500,000	
予備費	100,000	0	-100,000	
支出計	2,000,000	809,436	-1,190,564	
保留金	34,618,515	40,836,407	6,217,892	
合計	36,618,515	41,645,843	5,027,328	

六篠会 平成22年度一般会計予算

収入の部

項目	22年度予算案(円)	21年度予算(円)	増減(-:減)	備考
入会金	7,000,000	7,000,000	0	40,000円×約180名 (一括込み手数料)
雑収入	1,000	1,000	0	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	732,501	4,369,609	-3,637,108	
合計	7,733,501	11,370,609	-3,637,108	

支出の部

項目	22年度予算案(円)	21年度予算(円)	増減(-:減)	備考
農学部援助金	550,000	550,000	0	構内整備費、振込手数料
一般事業費				
会報発行費	1,600,000	1,500,000	100,000	年一回(約8,200部)
各種活動援助費	700,000	700,000	0	支部活動・学生活動支援
卒業記念祝賀費	350,000	350,000	0	祝賀会援助、紙袋代
卒業生名簿等管理費	1,000,000	100,000	900,000	
農学部創立60周年事業費				
記念事業援助費		3,000,000	-3,000,000	特別会計への繰り出し
活動経費-事務費		500,000	-500,000	実行委員活動費等
代議員総会経費	1,000,000	1,000,000	0	総会経費
一般事務費	600,000	500,000	100,000	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	300,000	300,000	0	理事会
旅費	100,000	100,000	0	
慶弔費	250,000	250,000	0	定年退職教員への記念品、電報
交際費	230,000	230,000	0	KUC活動費
褒賞費	100,000	100,000	0	
役員活動費	550,000	550,000	0	
神戸大学学友会費	120,000	120,000	0	年会費、編集委員会費等
予備費	283,501	1,520,609	-1,237,108	
合計	7,733,501	11,370,609	-3,637,108	

六篠会 平成22年度六篠会基金予算

収入の部

項目	22年度予算案(円)	21年度予算(円)	増減(-:減)	備考
前年度からの繰越金	40,836,407	36,613,515	4,222,892	
雑収入	30,000	5,000	25,000	大口定期・普通預金利息
合計	40,866,407	36,618,515	4,247,892	

支出の部

項目	22年度予算案(円)	21年度予算(円)	増減(-:減)	備考
学術活動援助費	400,000	400,000	0	
六篠賞	1,000,000	1,000,000	0	
海外渡航援助費	500,000	500,000	0	
予備費	100,000	100,000	0	
支出計	2,000,000	2,000,000	0	
保留金	38,866,407	34,618,515	4,247,892	
合計	40,866,407	36,618,515	4,247,892	

同窓会事務局の案内

会員の皆様からの本会へのご連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対するご要望、ご意見などお待ちしております。なおご連絡の際には、所属学科、卒業年次、送付物の宛名シールの右下に記載されている個人コードを併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

- FAX:078-881-2752
- e-mail:ans-rikusou@edu.kobe-u.ac.jp
- ホームページ
<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/sotugyousei/index.html>

編集後記

六篠会会員の皆様、ご活躍のごとこ喜び申し上げます。会報編集にあたり、多くの同窓生の方々にご協力を頂き、今年も何とか無事に会報を発行することができました。海外出張、学会、研究会、講演会の間をぬって原稿を作成していただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

第二十五号から農学部六十年を記念して設立された六篠賞の記事を載せております。紙面の都合上、受賞者全員の感想を載せることができませんでした。申し訳ございません。二十三ページに受賞者名、受賞内容を「一覧表」として掲載させていただきました。次号からできるだけ多くの受賞者について掲載させていただきます。

紙面の内容充実を今後も図っていきたく思っております。どんなことでも結構です。エッセイ、コラム、雑文など同窓会事務局の方にお送りください。楽しく、おもしろく、役に立つ紙面を目指して努力していきたいと思っております。また、「こんなことをもって載せてほしい!」「この企画はおもしろくないからやめろ!」など、ご意見がございましたら、会報担当理事までお申し付けください。

二〇二二年が良い年でありますように、また、皆様のご健康、ご多幸とご活躍を祈念いたします。

(会報担当理事)